

トラックのSAS対策

# 業界の検査受診4割弱

## 全ト協、助成増額も検討

既存のドライバーに長く健康に働き続けてもらう対策の一つとして、国や全日本トラック協会が運送各社に呼び掛けている、SAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニング検査の受診。2022年度、国土交通省がトラック運送業を対象に同検査を従業員に受けさせているか調査したところ、

受診させているのは全体の4割弱だった。全ト協では受診をさらに促すため、検査費用の半額を補助する助成予算の増額を検討していく考えだ。

SASは、睡眠時の呼吸障害で十分に眠れず、日中の強い眠気や疲労により居眠りの運転を引き起こす危険性の高い病気。治療せず放置すると高血

圧や脳・心臓疾患を併発し、突然死に至る恐れも。ドライバーがSASを患っているれば、事故発生のリスクは2・4倍に膨らむといわれる。

国土省はSASに起因する事故の対策強化を図り、22年、自動車事故報告書の取扱要領を一部改正。SASが疑われる居眠りの運転や漫然運転を伴う事故が起きた場合、推定原因として疾病名を報告するよう求めている。

SASは自覚症状を感じにくい。ドライバーが患っているかどうかを確かめるには、就寝後の血中酸素飽和度を計測するスクリーニング検査の受診が必要になる。業界でも受診率は徐々に高まってはいるが、前出の国交

省による22年度調査では「受診している」割合が37%という状況だった。運輸各社の積極支援不可欠  
全ト協では毎年、1億円の予算を立て検査の助成事業を展開。税抜きで1人当たり5000円かかる」とされる検査費用の半額を助成している。業界の受診割合が4割に満たない実情を受け、「全体に受診の輪を広げることが課題。検査の重要性を発信しつつ、24年度は予算を増やしていくことも検討したい(全ト協)」。

省による22年度調査では「受診している」割合が37%という状況だった。運輸各社の積極支援不可欠  
全ト協では毎年、1億円の予算を立て検査の助成事業を展開。税抜きで1人当たり5000円かかる」とされる検査費用の半額を助成している。業界の受診割合が4割に満たない実情を受け、「全体に受診の輪を広げることが課題。検査の重要性を発信しつつ、24年度は予算を増やしていくことも検討したい(全ト協)」。

AAS対策セミナーも実施している。  
受診後に精密検査が必要と判定され、結果SASと診断された場合、治療を始めることが重要。代表的な治療法がCPAP(経鼻的持続陽圧呼吸法)と呼ばれるもので、専用機器を用い、症状の軽重に合わせ空気圧で气道を広げ、呼吸を確保する方法だ。効果を出すため毎日の機器装着が基本にはなるが、OCHISにはなるが、OCHISの調べでは8割強のドライバーが治療効果があったと答えている。  
近年は、運行時に携帯できるものや、スマートフォンと連携し使用状況を確認できるものもある。

り、「治療を継続しやすいように進化している」(OCHIS)。  
ドライバーのSAS対策には、運送各社による検査受診や治療に対する積極支援が欠かせない。(水谷 周平)